

次世代への「コンクリート製品」 開発に向けて

ACTIVE KUMIAI



工場見学の様子①

山梨県コンクリート製品協同組合(宮崎洋理事長)は、今年度で設立23年を迎えました。
昨年は、3月11日の東日本大震災や台風等によりかなりの国土が被災し、尊い命も奪われ、改めて社会資本整備の必要性を実感した1年でありました。

国土整備の一翼を担う本業界としても、多くの方に製品を理解してもらうため、昨年度は組合員各社の製品のCADデータを一つにまとめ「組合CADデータ」として作成しました。

また、県土整備部及び出先機関の担当者の方々にコンクリート製品に対する理解を深めて頂き、実際に製造現場を知ってもらうために工場見学を実施し、3工場で延べ150名ほどの出席を得ました。

来年度はホームページを立ち上げ組合情報発信が出来るように準備を進めています。

さらに、来年度以降には、甲府駅南口の再開発が計画されています。これは、「歩道ユニバーサルデザイン」をテーマとして、今までに無い、「弱者に優しく、住みやすい街作り」として計画が進められています。本業界でも県と協議しながら、ユニバーサル対応の「次世代に向けたコンクリート製品の開発」による、貢献をしていきたいと考えています。

その他にも、全国コンクリート製品協会主催で、2010年からコンクリート製品の一般常識や知識向上のため「コンクリート製品検定(コン検)」が始まり、県内では組合員10名が合格しました。今後も、コンクリート製品を身近に知ってもらうためにも、学生・一般の方々へのコン検を普及していきたいと考えています。



工場見学の様子②